

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名：「用心棒の不調」

テーマ：「雪の精霊なのに、砂漠集落の用心棒な美少女」

キャラクター

35

ストーリー

40

テーマ(設定)

45

文章力

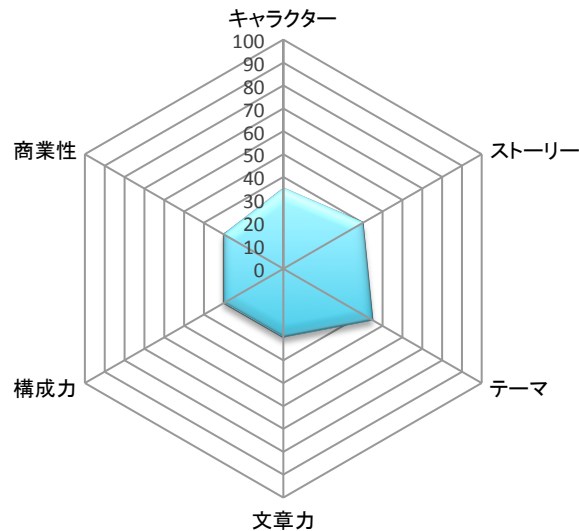
30

構成力

30

商業性

30



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ!」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・雪×砂漠というギャップを組み合わせた設定は非常に面白かった。ストーリーラインも非常に追いやすいもので、しっかりと事前にプロットを作った上で書かれたものなのであるということが伝わってくる。

・登場人物たちのキャラクター性も立っていて面白いのだが、どうしてもそのキャラクター性が「小説の設定」感を脱することができていない。これは恐らく、プロットのしっかりと事前に固めてしまったあまりに起きた事象であるように伺える。(例えば、イルに「仲間を思う気持ちが強い」という設定を最初に決めたとして、仲間を思う気持ちが強いからこそ生じるイル自身の行動の動機などが出て来るはず。その描写に重点をおくことで、キャラクター性が初めて「設定っぽい感じ」から「深みのある人間性」として読めるようになるのではないかと感じる。

・オチが唐突に訪れてしまう感が少しながら残念であった。原稿用紙枚数にまだ余裕があるため、怪力族との決着シーンをもう少し長く詳細に描写すればオチに向かって行く過程もより緊張感のあるものにして欲しかった感じは否めない。

合計加点ポイント: 0

総得点: 210 / 600

B方式総合得点: 7350 点